

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)櫛九洲日立金属若松 新建材工場	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	---------------------	-----	-----	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 /5		ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	2.6 /5		がんばろう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5		がんばろう 
4 高齢社会への対応	0.0 /5		がんばろう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.3	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		スコア 2.8	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数
			スコア 3.4
			Q2/ 3 対応性・更新性
			スコア 3.8
特になし。		給排水管には耐用年数の高い材質を採用。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 2.6	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮		スコア 4.2	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水
			スコア 1
ライフサイクルCO2排出率 68%		特になし。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出		スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上
			スコア 3
			LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
			スコア 3
特になし。		特になし。	
4 高齢社会への対応		スコア平均	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		スコア	主な指標
			建物の外皮性能 (BPI評価)
			建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価)
			非住宅: BEI値、住宅: -
			0.38
			外構緑化指数
			18.57 %
			建物緑化指数
			0 %

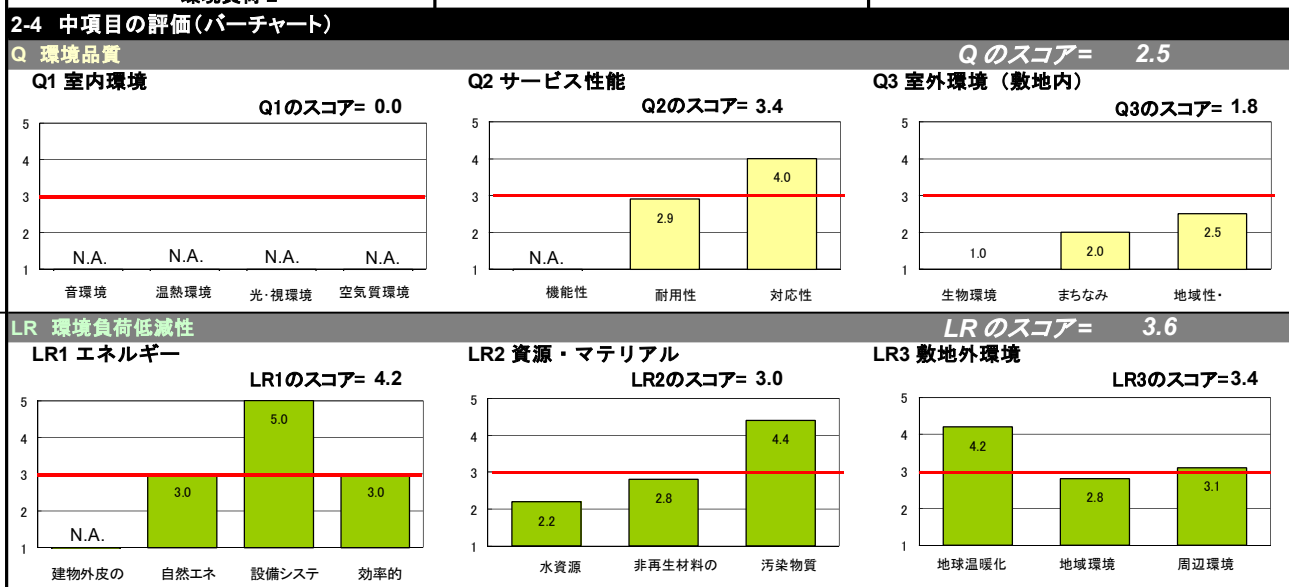
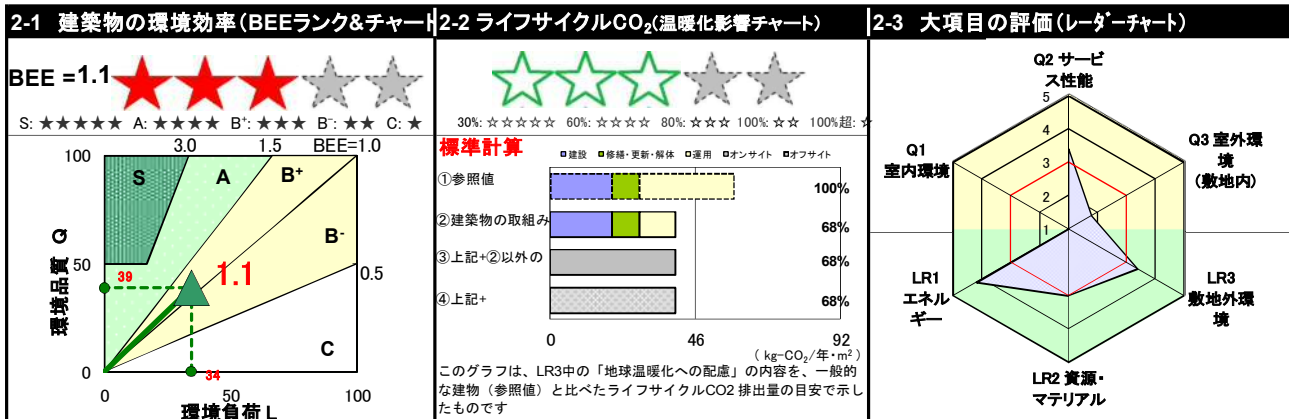
: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日立金属若松 新建材工場	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市若松区北浜1丁目1	構造	S造
用途地域	市街化区域、法22条指定区域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年2月 予定	評価の実施日	2017年12月8日
敷地面積	11,484 m ²	作成者	原田 良知
建築面積	5,014 m ²	確認日	2017年12月11日
延床面積	5,014 m ²	確認者	原田 良知



3 設計上の配慮事項		
総合	消費エネルギー性に配慮した設備を使用。	その他 特になし。
Q1 室内環境 計算対象外。	Q2 サービス性能 給排水配管は耐用年数の高い材質を採用。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 省エネルギー基準をクリアする省エネ設備 (LED照明) を採用。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材を容易に分別可能とした。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出量の抑制に配慮。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)日立金属若松 新建材工場

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート 基本設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.5
Q1 室内環境						
1 音環境		-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-		-	
1.2 遮音		-	-		-	
1 開口部遮音性能		-	-		-	
2 界壁遮音性能		-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-		-	
1.3 吸音		-	-		-	
2 温熱環境		-	-		-	-
2.1 室温制御		-	-		-	
1 室温		-	-		-	
2 外皮性能		-	-		-	
3 ゾーン別制御性		-	-		-	
2.2 湿度制御		-	-		-	
2.3 空調方式		-	-		-	
3 光・視環境		-	-		-	-
3.1 屋光利用		-	-		-	
1 屋光率		-	-		-	
2 方位別開口			-		-	
3 屋光利用設備			-		-	
3.2 グレア対策		-	-		-	
1 屋光制御		-	-		-	
3.3 照度		-	-		-	
3.4 照明制御		-	-		-	
4 空気質環境		-	-		-	-
4.1 発生源対策		-	-		-	
1 化学汚染物質		-	-		-	
4.2 換気		-	-		-	
1 換気量		-	-		-	
2 自然換気性能		-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-		-	
4.3 運用管理		-	-		-	
1 CO ₂ の監視		-	-		-	
2 喫煙の制御		-	-		-	
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.4
1 機能性		-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-		-	
1 広さ・収納性		-	-		-	
2 高度情報通信設備対応		-	-		-	
3 バリアフリー計画		-	-		-	
1.2 心理性・快適性		-	-		-	
1 広さ感・景観		-	-		-	
2 リフレッシュスペース		-	-		-	
3 内装計画		-	-		-	
1.3 維持管理		-	-		-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-		-	
2 維持管理用機能の確保		-	-		-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.50		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:VLP、汚水・排水・通気管:VPを使用	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.2	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20		-	
3 電気設備		3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		1.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			4.0	0.50		-	4.0
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり	平均階高3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.07	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	-		-	
2	給排水管の更新性	給排水管:現し	5.0	0.25		-	
3	電気配線の更新性	電気配線:現し	5.0	0.13		-	
4	通信配線の更新性	通信配線:現し	5.0	0.13		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.25		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.25		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.38	5.0	0.63		5.0
4 効率的運用			3.0	0.25		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60		-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			鉄骨造で、内装もLGS工法を採用	5.0	0.20		
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.4	0.20		-	4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	5.0	1.00		-	
3	冷媒		-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出率 = 68%	4.2	0.33		4.2
2 地域環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70		-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	